私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

2020年全国介護学習交流集会
オンラインで開催
コロナ禍での“介護崩壊”を許さない
日時▶10月25日(日) 13時半から16時
記念講演　制度発足20年の現実から介護保険を問い直す
－コロナ禍から安全・安心の介護保障を考える－
講師▶井口　克郎（神戸大学大学院准教授）
主　催／2020年全国介護学習交流集会実行委員会
連絡先／全労連　TEL:03-5842-5611

みやぎ民医連

発行所　宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801　田村ビル５Ｆ
TEL　022－265－２６０１
FAX　022－263－８２６６
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人　坂　田　　匠
1日・15日　月2回発行　1部 50円

講演・症例報告・SGD
SDHの視点を深めた医師総会

医師部事務局長　小野寺　知　洋

2020年度医師総会が9月12日（土）ｗｅｂミーティングシステムＺｏｏｍを使用して開催されました。当初は4月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の全国的な流行拡大を受け延期となり、時期や開催方法を含め医師部で議論を重ねて完全ｗｅｂ形式での開催となりました。

近年の医師総会は、ポスターセッションで医師の取り組む学術・教育、社会的活動などの様々な活動の交流や、医師体制とその課題を共有して、私たちがめざす医師像・民医連の医師養成などをテーマに学習・議論を行ってきました。今回は初のｗｅｂでの開催であり、全体でのリハーサルも2回実施して本番を迎えました。

zoom で開催

症例報告をする
山下舞伊子医師

症例報告をする
篠崎哲学医師

講演する高橋洋医師

当日の参加者数は全体で87名でした。うち医師・医学生が52名（医師43、医学生9）で他職種は35名でした。参加者のＺｏｏｍへのアクセスも滞りなく行われ、県連医師部長の宮沼医師の挨拶で開会しました。

今年度の医師総会のテーマは、ＳＤＨを意識した各科、各医師の取り組みを共有することでした。第一部は、千鳥橋病院の舟越光彦医師（福岡佐賀民医連　福岡医療団理事長）に「患者から学び、研究にまとめるＳＤＨ～すべての人に最高のケアを目指して～」と題して、診療で感じた「印象」気づきから始めたＳＤＨに関する臨床研究の経験や意義、民医連におけるＳＤＨ研究の優位性などを50分間熱く語って頂きました。チャット機能を利用した質疑応答もあり、ＳＤＨに取り組むことの重要性がより理解できた学習講演となりました。

研修医からのＳＤＨ症例報告は、篠崎哲学医師が「治療の中断を余儀なくされた精神疾患を伴う乳がんの一例」、山下舞伊子医師が「生活保護世帯の小児に対する医療」を報告。それを受けて参加者を12グループ（医師医学生9グループ、事務3グループ）に分け、Ｚｏｏｍの機能を利用して25分間のＳＧＤを行いました。その後、代表して2つの班がＳＧＤの議論の内容を発表しました。第一部の感想としては「臨床研究の実際について学ぶ貴重な機会だった」「改めてＳＤＨの重要性と民医連ならではのアプローチの優位性を認識できた」「症例報告は経過や背景がよく理解でき、ディスカッションもできて良かった」などが寄せられました。

第二部は、新入医局員の自己紹介動画を視聴した後、坂総合病院副院長の高橋洋医師が「新型コロナウイルス感染症ｕｐｄａｔｅ冬季の流行拡大に向けた見とおし」と題して講演しました。この数ヶ月で明らかになってきたことや今後さらに解決すべき課題や問題点を示し、冬季に向けては地域状況に応じた細かい対応が求められることなどを講演。「最新の情報やマスコミに流れていない情報が理解でき勉強になった」との感想が多く寄せられました。

第三部ではオンライン懇親会も行われ、これまでの医師総会とは全く違った開催方法でしたが、大きなトラブルもなく無事に終了することができました。全体の感想としても肯定的感想がいくつも寄せられ、ＳＤＨの視点での民医連医療の推進と今後の新型コロナウイルス感染症への対応などを深められ、大変有意義な医師総会となりました。

Webでの感染学習会
全職員が視聴して学んだ

泉病院感染対策室　湯　浅　有里香

泉病院では、毎年、年2回感染対策の学習会を行っています。今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で「3密」を避けることが必須となり、全体学習開催場所が課題となりました。当院では、友の会ホールが最大スペースとなりますが、最大15名を上限としています。一人一人の学習機会確保のために、Ｗｅｂ配信で学習会を行うこととしました。

ＷＥＢ配信期間は7月16日～8月17日までで、内容は「個人防護具（ＰＰＥ）の適正使用」としました。当院でも新型コロナウイルス感染疑いの方が受診されます。その時に防護具をどう選択するかで迷ったという事例がありました。適切な防護具の選択は感染対策においてとても重要です。

職員1人1人が正しい知識を持ち、適正に選択できるようになって欲しいと思い、この内容を企画しました。

今までは当日参加できなければ資料を読了でしたが、今年は自分の空いた時間にＷｅｂで講義を視聴できたので、全職員が視聴でき、とてもよかったと思います。感染対策上、研修等の集まりはしばらくの間、15人上限の集合研修とＷｅｂ方式の併用になる予定です。

その他、感染対策関連では、4月21日に当院の関口医師講師で新型コロナウイルスの勉強会を行っています。この頃は緊急事態宣言が発令されたこともあり、職員に限らず全国的に新型コロナウイルスに対する恐怖心がピークの時期でした。職員の不安を少しでも軽減したいと思い企画・実施しました。幅広い職種が参加し、新型コロナウイルスの基礎知識から感染経路、防護具の選択の講義を受け、「ヘルスリテラシーを身につける」ことの大切さを学ぶことが出来ました。

今まで経験したことのない感染症への対応は、外来の動線をどうするか?換気をどうするか（古い構造の建物の為、双方向換気ができないなど多くの大変さがある）?面会をどうするか?など考える事が日々、時々で沢山あります。そのため、ＩＣＴが定期開催のみでなく臨時ミーティングも行い、対応をしています。また、ミーティングでは皆で小さなことでも情報交換（情勢や医療品の入荷具合等）を行い、各職場の感染対策委員に伝達を行っています。

新型コロナウイルスとの戦いはまだまだ続くと思いますが、正しい知識を持ち、的確に備えたいと思います。1日も早い終息を願います。

健康手帳

米の若者7割「核兵器必要ない」新聞の片隅の見出しに目がとまった。75年前に広島に原爆が投下された8月6日の記事である。▼ＮＨＫ広島放送局のアンケート調査で、アメリカの若者（18歳から34歳）約千人の70・3％が核兵器について「必要ない」と回答した。日本への原爆投下についても、4割が「許されない」と回答し、「必要だった」と回答した3割を上回った。▼5年前の同様の調査では4割以上が「正当だった」と回答していたというから、若い世代の認識が大きく変わってきているといえそうだ。▼核兵器廃絶をめざして活動するＩＣＡＮにノーベル平和賞が授与され、核兵器禁止条約批准国は発効が必要な50ヵ国までであと5ヵ国。ここに至るまでに原爆の非人道性を身をもって訴えてきた被爆者の命がけの歩みがあったことを忘れてはならないと思う。▼同じ新聞に、被爆者の証言をもとに「原爆の絵」を描く広島の高校生たちを紹介する記事もあった。1年をかけて何度も体験を聴き、修正を重ねて作品を仕上げる真摯な姿勢に打たれる。▼収束のみえないコロナ禍のさなかだが、久々に希望を感じ、心励まされる朝のひと時となった。

福島原発事故は終わっていない

女川原発2号機の再稼働を止めよう

9月6日「女川原発2号機の再稼働を止める2020年秋の闘いをここから！」を訴える集いが行われ、110人が参加しました。主催はさよなら原発みやぎ県民大集会実行委員会です。

講演で、福島県相馬市で開業している精神科医の蟻塚亮二氏（青森民医連・藤代健生病院元院長）は、福島第一原発事故の被災者は、住み慣れた地域や近隣とのつながり、生活手段、帰る土地と未来を失った、国内難民であると強調しました。また、避難回数と県外居住による精神健康の悪化について浪江町津島地区の避難者500名を対象に調査した結果、平均避難回数が4・65回、PTSDハイリスク群は48・5％あり戦争被害者に匹敵すると報告。その原因として健康不安、事故発生時の恐怖を話せる場がない、相談できる人がいない、さらに国や東京電力による被害者に対する救済が行われずに不透明な状況が長引いていると話されました。さらに震災後、福島県の児童虐待率が全国平均より増加しており、大人のメンタル状況が影響していると考えられると補足、福島原発事故はまだ終わっていないと強調しました。

鼎談後質疑に答える蟻塚さん（右）、神田さん（中央）

国や東電の物理的・精神的責任は重大だと改めて考えさせられました。

福島県いわき市出身の講談師、神田香織さんは、広島の原爆投下を題材にした自作の講談「はだしのゲン」やチェルノブイリ原発事故を描いた「チェルノブイリの祈り」の一部を公演。福島第一原発事故の避難者を描いた「フクシマの祈り・ある母子避難の声」も披露しました。

また、第二次世界大戦で玉砕したサイパン島を訪問し、日本軍や民間人が集団自決したバンザイクリフを訪ねたことがきっかけで、反核・平和の講談をするようになったと話しました。バンザイクリフという呼び名は、崖を飛び降りる日本人が「天皇陛下バンザイ」と叫んでいたことに由来すると聞いて胸が痛くなりました。

神田さんは「安倍政権は健康問題で退陣することになったが、数々の悪政には審判を下す必要がある。特に原爆被爆国でありながら核兵器禁止条約締結に背を向けていること、福島原発事故を体験しても原発再稼働を進めようとしていることは許すわけにはいかない」と強調しました。

最後に、主催者を代表して多々良哲氏が、9月23日から開会する県議会への請願署名を全力で取り組むこと、9月26日に行われる「女川原発を止めよう！宮城県民大集会」を史上最大の規模で成功させようと呼びかけました。

歯の何でも電話相談会

新型コロナウイルス感染への不安も寄せられた

古川民主病院歯科　事務長　相澤　正樹

マスコミの取材を受けながらの電話相談

「歯の何でも電話相談」が8月30日の午後に行われ事務局として参加しました。本来は毎年11月に「いい歯デー市民の集い」を開催しているのですが、新型コロナの感染拡大防止の観点から開催を見送る事になり代替の企画としての開催でした。

当日は東日本放送の取材も入り、多くの相談が寄せられる事を期待していました。急な開催決定だったこともあり、宣伝が十分行き渡っていなかったためか相談件数は11件でした。相談には保険医協会4名、松島医療生協1名、厚生協会1名の歯科医師が回答しました。

相談内容は「顎関節から音がする、治療にはどのようなものがあるのか」「マウスピースを使用し顎関節症が治ったが最近症状が出始めた治療すべきか」「小6の娘の歯並びが気になるがいつ矯正治療を始めたらよいか」といった専門的な内容の他、「歯茎から血が出る、どこの歯科医院へ行ったら良いか」「自費の義歯を入れたいがどうか」といった一般的な質問も寄せられました。歯科治療は新型コロナウイルスへの感染リスクが高いという報道で、歯科受診を控える方も多かったせいか、「症状が出たり気になるところがあるが今歯科医院を受診して大丈夫か」という相談も多く見受けられました。

担当した歯科医師それぞれが、新型コロナの感染拡大の前から歯科医院では感染防止対策をしっかり行っている事、お口の病気は早く治療し定期的なケアで重症化を予防する事が大切である事を訴えていました。全日本民医連歯科部の新型コロナの影響調査では、4月5月の患者数は前年同月比で80％台と落ち込みましたが、6月から回復基調であるとの調査結果が出ています。

今年の「いい歯デー市民の集い」は、昨年結成された「保険でより良い歯科医療を」宮城の会が主催する初の集いとなる予定で、更に幅広く多くの方に参加していただけると期待していただけに大変残念でした。来年以降も従来の形式での開催は困難かもしれませんが、新たな形式での開催ができないか模索していきたいと思います。

県連職員紹介

県連に大槻真由美さんと吉田美穂さんが、着任しましたので紹介します。次の質問に答えていただきました。①氏名②入職年③前職場④担当⑤出身地⑥居住地⑦趣味・特技⑧県連職員に一言

おおつき　まゆみ

①大槻真由美②1992年③長町病院診療サービス課④医学生担当⑤宮城県⑥塩竈市⑦ライブ鑑賞・イラスト⑧楽しく仕事するがモットーです。よろしくお願いします。

よしだ　みほ

①吉田美穂②1997年③長町病院外来師長④看護学生室⑤宮城県⑥仙台市太白区⑦インスタグラムを見ること、ヨガ、音楽・radikoを聴く。⑧コロナ禍で様々な変化がある中ですが、工夫しながら学生確保活動をしていきたいと思います。よろしくお願い致します。

声

私にとって8月は平和を考える月。若い人や子どもたちに戦争の悲惨さ、平和の大事さと伝えていきたいと強く思っています。先日、子ども（高校生）とアンネ・フランクのドキュメンタリーを見ました。子どもはどんなふうに感じたのか話はしませんが、きっといろんなことを感じてくれたことでしょう。

下馬みどり保育園
保育士　杉井知子

クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。**余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただく場合があります。**応募資格＝臨時・パート含む県連職員。締切10月31日当日消印有効。発表11月15日号。**8月1日号答え**「キユウフキンキ（給付金式）」・応募総数14件。当選者＝**鈴木こずえ**／宮城厚生協会、**杉井知子**／下馬みどり保育園、**那須まゆみ**／はなみずき、**北村明子**／宮城厚生福祉会、**伊藤初恵**／田子のまち（敬称省略）

8月15日号答え・①**左下**・**丸田いすの枝**、②**左から2番目の人の帽子**、③**その人の首のバンダナ**、④**鍋のお玉**、⑤**右から2番目の人のエプロンの胸元**、⑥**右上のバンガローの屋根**、⑦**犬のしっぽ**・応募総数18件。当選者＝**菊地仁美**／坂総合病院、**今野眞紀**／坂総合クリニック、**菊地秀子**／長町病院、**渡辺由美**／古川民主病院チリハビリ室、**鈴木摩耶**／古川民主病院（敬称省略）